

平成29年度 学校評価報告書（目標設定・~~実施結果~~）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①各教科・科目の学習到達目標を設定し、生徒学力調査等で定着度の検証を行う。</p> <p>②生徒の学習意欲や探究心を高める組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>③学校行事を一層充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>②ICT利活用及びアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を各教科で充実させるとともに生徒の学習意欲を向上させる。</p> <p>③生徒が自分たちの創意と工夫により、学校行事を活性化させていく過程を支援する。</p>	<p>②・各教科で、ICT利活用及びアクティブ・ラーニングの視点に立った授業の取組を学習単元毎に取り入れ、研究授業を実施する。</p> <p>・家庭学習の習慣の定着をすすめる。</p> <p>③教員の指示・指導に基づくのではなく、生徒の委員や希望者等によって学校行事が主体的に運営されていくように関係職員が支援を行う。</p>	<p>②・生徒による授業評価の項目1「教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。」または項目4「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。」における3、4の回答率が前年度数値（3.29、3.18）より高くなったか。</p> <p>・学校生活アンケートにおいて、家庭学習時間の増加がみられたか。</p> <p>③行事後のアンケート等で、主体的な取組に対してどの程度の肯定的評価が得られたか。</p>	<p>ICT利活用研究プロジェクトチームが主導して、全HR教室に遮光カーテンを取り付けるなど、ICT利活用に係る教育環境の改善に取り組むとともに、ICTを利活用した授業方法の研究や校内の普及およびICT教材の開発などを行い、授業改善が前進した。</p> <p>第1回生徒による授業評価の結果分析をもとに、各教科は課題解決に向けた取組を行い、11月にICT利活用及び主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業をテーマとして教育活動公開を行った。その結果、「授業評価」の項目1の授業の準備・教材の工夫は、1回目が3.27、2回目が3.30と向上した。この値は、いずれも昨年度のものを上回っている。項目4の生徒主体の授業の工夫は1回目が3.13と昨年度を若干下回ったものの、2回目は3.19となり、昨年度の値を上回った。</p> <p>授業力向上のための「Kプラン」を策定し、英語の授業力向上を推進した。</p>	<p>ICT利活用による主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業のさらなる研究や手法の研修を進めて行きたい。</p> <p>また、11月の研究授業での成果や中学校との交流により得られた知見を各教科の共有財産とするとともに、生徒による授業評価の結果分析については、教員個々の改善レポートをもとに、今後は教科として課題解決のレポートを作成し、教科単位での授業改善をより推進する。</p> <p>授業力向上のための「Kプラン」の平成29年度の達成度を踏まえ、英語による授業の実施をさらに進めるとともに、他教科の授業力向上の策定も併せて進める。</p>	<p>ICTを活用した授業づくりが様々に話題になっているが、良い面ばかりではないだろう。利点のみならず、課題も整理しながら、取組を進めてもらいたい。</p> <p>アクティブラーニングの視点に立った授業づくりも同様で、従来の授業の良さも捉えながら生徒の主体的な学びにつながる改善を進めてもらいたい。</p> <p>授業力向上を目指した「Kプラン」の成果を、是非他の教科にも広げてもらいたい。</p>	<p>ICTを活用した授業づくりや、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりの工夫は、生徒による授業評価の向上にもつながり、成果が見られた。ただし、十分な成果とするだけの数値ではないので、生徒の主体的な学びをさらに支援する学びづくりが求められている。授業力を向上するために、他校の取組を積極的に学び、自校の授業づくりを組織的に改善する取組を多くの教科で進めていく必要がある。</p>	<p>平成29年度に英語科で取り組んだ授業改善のための「Kプラン」の成果を踏まえてさらにバージョンアップしたプランを策定し、実施する。</p> <p>また他の教科においても、授業改善のためのプランを策定し、実施する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①安全・安心な学校生活に向けた生活習慣の定着を図る。</p> <p>②部活動や生徒会活動等を一層充実させ、生徒の主体的</p>	<p>①学校生活におけるルールやマナーを向上させ、時間にゆとりをもって行動する習慣を定着させる。</p> <p>②部活動への加入率を70%以上となるように参</p>	<p>①朝の8:30登校が日常化するように、生徒主体による全校・学年でのキャンペーンを行う。</p> <p>②部活動加入率の向上および部活動定着の運動をすすめる。また、質の高い技術指導を提供し、大会等での成果の</p>	<p>①遅刻者数の統計が対前年度比で減少したか。「遅刻者0」の日数が増加したか。</p> <p>②各部活動において、前年度以上の活動の成果を収めることがで</p>	<p>①年間遅刻者数はH27 4,626人 H28 4,001人 H29 3,676人と減少傾向にある。</p> <p>②部活動の実績においては、全国大会出場が3部、関東大会出場が3部あり、県大会の上</p>	<p>①8:30までの登校を励行する登校指導を引き続き行い、ゆとりを持った登校をさせたい。日ごろの声かけや朝の登校指導を徹底していく。</p> <p>②生徒会役員会の活動を活発化させ、生徒会行事や部活動に係る主体的な取組を</p>	<p>遅刻する生徒の数が減少してきているのは丁寧な指導がもたらした成果だと思われる。今後も継続し「遅刻者0」の日数が増えるようになってほしい。</p> <p>入学してくる生徒たちの気質に変化がみられるだろうが、現状を踏まえながら指導の方</p>	<p>遅刻指導の成果が上がっていることは、遅刻件数の経年変化に明らかである。しかし、生徒のなかには生活改善が見られない者や、ゆとりのない生活を改善できない者も少数ながらいるので、取組の工夫が必要である。</p> <p>部活動加入率が伸び</p>	<p>従来の遅刻指導をさらに丁寧に行うとともに、保護者の協力をさらに得ながら、生徒の生活改善につながる指導の在り方を検討する。</p> <p>部活動加入率については、入学者選抜時における部活動への意欲が、入学後に反映され</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月20日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	な行動の促進を図るとともに、加入率の向上を図る。	加を促進し、活動成果の向上を図る。	向上をはかる。	きたか。また、部活動加入率は70%を超えたか。	位に進出する部もあった。実績としては昨年度を上回る好成績である。また、2つの同好会が立ち上がったが、加入率においては、運動部45.7%、文化部18.9%で全体としては64.6%となり、昨年度より0.1ポイントの微増であった。	今以上に支援することが急務である。学業と部活動の両立を目指すことができる環境を整えること、部活動の指導体制に係る県の施策を活用すること、部活動総点検による安全面の環境整備に努めることが課題である。	法を工夫し、主体的な学びのできる、創造性を持った生徒を育てていってほしい。	悩んでいることについては、一層の取組が必要である。	ているかどうか、丁寧な追跡調査を行いながら、部活動加入を勧める取組を継続する。	
3	進路指導・支援	1年次からの計画的なキャリア教育を進めることで、生徒一人ひとりがより高い意欲を持ち、進路実現をめざすように指導・支援を充実させる。	①面談や進路ガイダンスなどとおし、進路意識の向上を促し、進路実現に向けた個人の努力を支援する。 ②「総合的な学習の時間」を中心に、コミュニケーション力の一層の向上を支援する。	① 各種のキャリアガイダンスで、質の高い情報を提供する。 ・進路実現に向けた生徒一人ひとりの取組を支援する。 ② 「総合的な学習の時間」の中で、グループワークや合唱等の取組を通してコミュニケーション能力の向上を支援する。	① 生徒へのアンケートで、進路ガイダンスなどが、進路意識の向上につながったという回答が増加したか。 ・生徒の進路希望どおりの進路結果が得られたか。 ② 「総合的な学習の時間」の生徒の振り返りの中で、コミュニケーション能力が向上したという回答が増加したか。	3年生については、進路についての意識が向上したと答えた生徒は88%であり、昨年度よりやや増加した。また、決定した進路への満足度では、満足と答えた生徒が85%であった。	進路ガイダンスの内容の充実を図り、さらなる情報発信に努める。また、「総合的な学習の時間」を中心に、自分の適性を考え、職業や上級学校への意識を高めるための学習を充実させる。今年度、3年生に3年間の振り返りアンケートを実施したが、決定進路への満足度と、学習に対する取組姿勢にはギャップがあった。高校3年間しっかりと学習に取り組む姿勢の涵養を進める。	進路決定に向けた生徒の発想に「効率重視」という意識が強く働いており、進学で言えば推薦入試を選択する者が多いのではないかと。生徒が視野や興味の幅を広げるための指導の在り方を検討して頂きたい。	生徒の進路意識に向上は見られるものの、合格に向け、より確実性・安全性を求める志向が強いことも明らかである。日々の学習指導をさらに充実させながら、生徒の資質・能力を高め、自信をつけさせることで、より良い進路選択へ向かう意識の醸成を図ることが必要である。	日常的な学習指導と将来へのキャリアプランニングとが噛み合うように、学年全体や学校全体での取組について、統一的で系統的な進め方を徹底する。外部検定試験等を全員に受験させながら、自らの学ぶ意欲や、学力への自信を実感できるような学習支援の取組をさらに充実させていく。
4	地域等との協働	地域との様々な協働を推進し、地域唯一の高等学校として、共に発展する学校づくりを進める。	地域と協働した活動や、ボランティア等への参加者を増加させ、地域からの信頼度を向上させる。	地元自治体、町内会、学校等の行事に参加する生徒数が前年度よりも増加するよう、情報発信や取りまとめの方法を工夫する。参加者に対して、効果測定を行う。	地域の諸行事の参加者数が対前年度比で増加したか。また、事後の効果測定で、肯定的回答数が向上したか。	町内会、近隣小学校等の学校行事に部活動生徒が参加した。参加規模は昨年度と同程度であった。清掃活動等の参加者は全校生徒の55%であった。	地域からのボランティア活動の呼び掛けに対して、1、2年生の生徒が夏休み中に5名程度参加したが、生徒への周知と意識付けについて、全校向けの広報紙等で呼びかけをして行くなどの取組が今後必要である。	地域の人間と生徒が触れ合う中で興味・関心の幅が広がるような学びにつなげてもらいたい。社会で求められる人材とは、新たな課題が出現した時に、積極的な仲間づくりができ、具体的な取組を主体的に推進できる力を持った人材である。また外国とつながりのある住民との関わりに際して、英語力だけでなく「やさしい日本語」を使ったコミュニケーション力も重要であることを意識してほしい。	地域との関わりを積極的に進めていく生徒が限定的であり、学校全体としての取組につなげていない。学びの幅を広げるためにも取組の充実が必要である	地域協働の取組を学校全体で進めるため、平成30年度からのコミュニティ・スクール制度を活用して、地域との関係性をさらに推進する。
5	学校管理 学校運営	安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に努め、事故のない、信頼される学校づくりを進める。	安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に努め、事故のない信頼される学校づくりを進める。	① 快適な学習環境維持のための清掃活動を徹底し、ごみの減量及び分別を徹底する。 ② 地域との合同による防災訓練を実施し、防災に係る地域への貢献を進める。	① 清掃活動が活発に行われ、生徒の意識の向上があったか。排出するごみが対前年度比で減少したか。 ② 地域との合同訓練を行う事を通して、生徒が地域防災に関わる事の意義を理解することができたか。	通常清掃活動、文化祭等の行事において、ごみの分別を励行し、資源ごみの有効利用に努めた。一般廃棄物量は、前年度比71%であった。 防災教育では、全生徒が、DIG研修、シェイクアウト訓練を行った。また、宮前消防署の指導のもと、地域連携の一環として、中馬保育園の園児が来校し、地震体験、煙体験を一緒に行った。	清掃活動のさらなる励行やごみの分別、減量の徹底など、校内美化活動を推進していく。また、節電、節水を呼びかけていく。 次年度も、地域と連携した、体験型の防災教育を推進していく。	地域の諸機関と連携した防災訓練等を継続的に実施し、一定の成果を上げている。しかし関わりが限定的になっていることもあり、広範な地域社会との協働を検討することが必要である。	地域との協働による防災訓練の実践事例等に学びながら、コミュニティ・スクール制度を活用して、本校周辺の地域の方との協働訓練や、一時避難所としてより良い運営方法を検討し、準備を進める。	